AAR Japan
認定NPO法人 難民を助ける会



障がいのあるロヒンギャ難民に移動の自由を
～バングラデシュ～

バングラデシュ

障がいのあるロヒンギャ難民に移動の自由を
～一人ひとりに合った補助具で、日常生活の可能性を広げる～

- **実施期間：2026年11月以降**
- **募集金額：200万円×1口**

バングラデシュの基本情報

バングラデシュはイスラム教徒が9割を占める南アジアの国です。
経済成長が急速に進む一方で格差は拡大し、多くの貧困層が取り残されています。
1978年以降、隣国ミャンマーから逃れてきたロヒンギャ難民を受け入れ、
その数は累計100万人とも言われています。

面積 ： 14万7千平方キロメートル(日本の約4割、バングラデシュ政府)

人口 ： 1億7,119万人（2022年、世界銀行）

首都 ：ダッカ

民族 ：ベンガル人が大部分を占める。ミャンマーとの国境沿いのチッタゴン丘陵地帯には、チャクマ族等を中心とした仏教徒系少数民族が居住。

言語 ：ベンガル語（国語）、成人（15歳以上）識字率：77.7%
（2022年、バングラデシュ統計局）

宗教 ：イスラム教徒91%、その他（ヒンズー教徒、仏教徒、キリスト教徒）9%
（2022年、バングラデシュ統計局）



概 況

隣国ミャンマーから逃れてきたロヒンギャ難民が暮らすロヒンギャ難民キャンプでは、教育の機会が限られているほか、児童婚、人身売買、家庭内暴力などの問題が深刻化しています。難民を受け入れている地域にも貧しい世帯が多く、大規模な難民の流入によって経済的な影響が生じています。



40,000人以上

難民キャンプでの1平方キロあたりの人口密度は4万人 ※1



5〜10%

児童婚をする難民世帯は5〜10% ※2



13%



2%

難民キャンプで教育（非公式）を受けられているのは、15歳〜18歳の男子13%と女子2% ※3

参照

※1 https://www.thelancet.com/pdfs/journals/langlo/PIIS2214-109X(20)30282-5.pdf
※2 https://reliefweb.int/report/bangladesh/2020-joint-response-plan-rohingya-humanitarian-crisis-january-december-2020
※3 https://reliefweb.int/report/bangladesh/2020-joint-response-plan-rohingya-humanitarian-crisis-january-december-2020

AARの主な活動

2017年～2018年

緊急支援物資の配付



コックスバザール県内のクトゥパロン難民キャンプで、緊急人道支援物資（毛布や蚊帳、大人用・子ども用の衣類など）を配付。

2017年～2021年

清潔な水・衛生環境の改善



トイレや水浴び場、井戸を建設。維持管理の体制作りや衛生知識を広げる活動を実施。

2018年～2022年

女性のためのスペースを運営



家庭内暴力や人身売買、早期婚など女性を取り巻くリスクから身を守る方法を伝え、女性たちが安心して過ごせる空間を提供。

活動地、基礎情報





2020年以降に設置された難民キャンプを取り囲むフェンス

コックスバザール県ロヒンギャ難民キャンプ

バングラデシュ南東部のロヒンギャ難民キャンプには、約115万人の難民が密集し、「世界最大の難民キャンプ」と言われています。周囲はフェンスが張り巡らされ、キャンプ外を自由に行き来することはできません。

ロヒンギャ難民の多くが同キャンプで9年以上暮らし、長引く避難生活から閉塞感に包まれています。国外の援助団体が撤退したり、国連機関からの食料配付が減少したりと、多くのロヒンギャ難民が先行きが見えない状況に置かれています。

現在の状況と課題



下肢に障がいのある男性に義足を提供

母国ミャンマーの政治的混乱やキャンプ内の治安の悪化が続くなか、ロヒンギャ難民は帰還の見通しが立たないまま、先の見えない避難生活を余儀なくされています。なかでも**障がいのある人は、日々の移動すらままならず、社会参加の機会も限られることがあります。**さらに**近年、キャンプでは洪水や火災などの災害も頻発しており、災害時の避難にも一層の困難を抱えています。**

また、障がいがあっても、必要な支援につながっていない人も多くいます。こうした人々を見つけ、一人ひとりの障がいや状況に応じた支援を届けることが求められています。

まるごと募金プロジェクト2026－活動概要



障がいのあるロヒンギャ難民に
移動補助具やリハビリを提供

↓

移動の幅が広がり
より安心して日常生活を送れるように
なります

活動内容詳細

- 障がい者支援に取り組む現地協力団体「SARPV」と連携し、障がいのある人の自宅を個別訪問します。身体の状態や生活環境を調査し、約40人の支援対象者を決定します。

- 一人ひとりの障がいの状態に合わせて、義手・義足などの移動補助具を製造します。

- 支援対象者に補助具を提供します。また、必要に応じてリハビリサービスや、他のNGOが提供する医療情報を案内します。

募集金額

200万円×1口

- 義手・義足や車いすなどの補助具の製作・購入、配送費など

提供する移動補助具に、お名前や法人名を記したシールを貼付することをご希望の場合は、お申し付けください。



AARとSARPVから車いすを受け取った、脚に障がいのある男性

AAR職員から

「移動できる」ことが、命を守る

難民キャンプでは洪水や火災などの災害が毎年のように発生し、ただでさえ厳しい難民の人々の生活をおびやかしています。災害が起きた際、移動手段を持たない障がい者や高齢者は、命の危険にさらされます。移動は、生活の改善だけでなく、命を守るための手段です。皆さまのご支援をお願い申し上げます。



大室 和也 OMURO Kazuya バングラデシュ事業担当（カンボジア駐在）

大学卒業後、理学療法士として働きながら大学院で介護予防を研究。病院勤務を経て、青年海外協力隊としてウズベキスタンの国立リハビリテーションセンターで、患者へのリハビリ等を担う。帰国後、2013年にAAR入職。佐賀事務所勤務を経てカンボジア駐在員。京都府出身

スケジュール

実施期間	2026年11月　～ 5カ月（予定）
中間報告	事業開始から3～4カ月後に進捗をご報告
完了報告	事業完了後、2～3カ月以内（予定） 完了報告は、駐在員・現地職員によるオンライン報告会、ご訪問による報告、書面によるご報告など、ご希望に応じて行わせていただきます。

その他

- 現地事情によって支援活動が遅延ないし変更される場合があります。
  その際は、事前にご相談いたします。
- ご支援額を下回る金額でプロジェクトを終了した場合、ご相談の上、
  次なる支援などに活用させていただきます。

お問い合わせ

AAR Japan

特定非営利活動法人　難民を助ける会

〒141-0021　東京都品川区上大崎2-12-2　ミズホビル7F

Tel.03-5423-4511　Fax.03-5423-4450

www.aarjapan.gr.jp

まるごとプロジェクト募金担当：桐生、平井

フリーダイヤル：0120-786-746